SoP

Sibata Orange Press

シバタ オレンジ プレス ■毎月25日発行 vol.31

特集 新発田市の出産適齢期人口の推移

「しばた」を知って楽しみ、「新しいしばた」の町をつくる新聞

発行人＝阿部 聡　平成26年4月25日号

発行所／(有)アミックス
〒957-0021　新発田市五十公野 4837-6
tel 090-2733-3568　fax 0254-23-6946

SOP 提言

人口減ストップのため産業振興で雇用拡大を

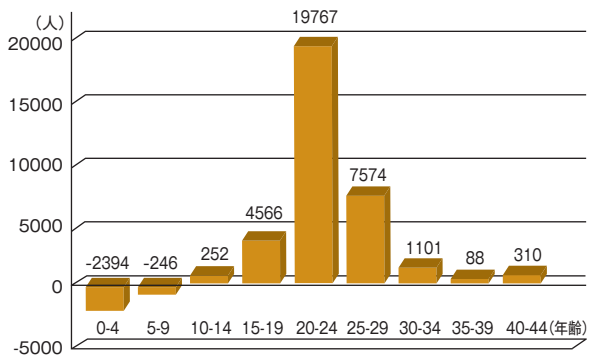
仕事を求めて若い女性たちが大都市に流出し続けている

最近、注目されているデータがある。20～39歳の女性、つまり「出産・子育ての中心となる若い世代の女性の人口」（NHK）、仮に出産適齢期人口というが、これが大幅に減少し、26年後の2040年（平成42年）には半減する自治体が全国で373に上るという推計（国立社会保障・人口問題研究所）だ。新潟県では弥彦村と田上町がこれにあたる。全国的には、北海道・東北・四国、そして東京周辺の地方での減少が激しい。静岡県伊豆市の場合、平成16年から25年の10年間で約1千人、率で約28％減った。出産適齢期人口が半減すれば、何らかの手を打たない限り、出生数も半減し、人口減少は加速度的に進むと考えられている。

転出の最大の原因は「地元に仕事がないこと」。そのため、若い女性の多くが仕事を求めて首都圏、主に東京に向かう。

出生率が全国最低の東京は、平成12年を境に転入超過となった。平成24年で20～39歳までの女性の転入超過は3万1千46人（うち区部2万8千530人、ニッセイ基礎研究所）である。「以前なら進学のために上京してもUターンする女性も多かったのだが、最近はそのまま留まる女性、さらに地方の大学を出ても仕事がないため上京する女性が増えた」と分析している。東京で単身者世帯（平成22年で45％、その1／4が高齢者単身世帯）が急増し、介護など多くの人材を必要としているのが最大の原因だ。

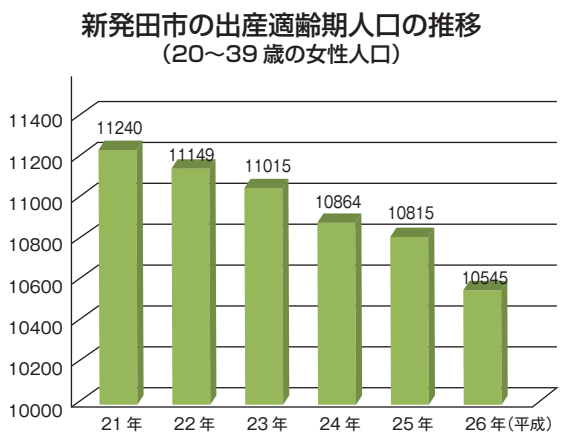
これを「東京ブラックホール現象」という。地方の若い女性を吸い込み続け、最初は転入人口が増えるが、やがて地方に若い女性がいなくなって吸い込むことさえできず、東京も衰退に向かうという説である。



新発田市の20～39歳の女性、平成21年から10年間で25％減

新発田市の場合をみると、5年前の平成21年3月の20～39歳の女性の人口は1万1千240人、その後減り続けて平成26年3月では1万545人、5年間で695人、率で6・2％の減である（新発田市5歳階級別人口）。このままいくと、さらに5年後には20～39歳の女性人口は8千337人になると推計される。平成21年に比べ2千903人減、おおむねでは平成21年から31年までの10年間で3千人、25％減となる。伊豆市の28％減と大して変わらない。

人口が減れば、商店や医院・学校なども必然的に減り、結果的にコミュニティは成り立たなくなる。行政経費のみ拡大し、税収は落ち込み、福祉・教育に回す財源は窮乏し、自治体は崩壊する。



この1月にスタートした政府の経済財政諮問会議「選択する未来委員会」では、委員の増田寛也元総務大臣が「2040年以降、500以上の市町村が消える」と発言、危機感をあらわにした。

子育て支援のさらなる充実と働く場の確保を最優先で

昭和30年に7万3千人だった島根県益田市では昨年5万人を切った。そこで平成32年には人口を5万5千人にするという目標をかかげ、「人口拡大課」を新設した。人口問題は国の問題とされてきたが、「消滅」が現実味を帯びてきた今、人任せにはしていられないとして、「自分たちでできることはやる」と、大きく舵を切ったのだ。

新発田市でも平成17年5月の10万6千494人から平成26年3月には10万1千254人に減った。5千240人、率にして5％（新発田市住民基本台帳）。注目しなければならないのは、20～39歳の女性の減り方が6・2％とこれより多いことだ。

何らかの手を打たない場合、国立社会保障・人口問題研究所は2040年（平成42年）の新発田市の人口を7万1千988人と試算した。

二階堂市長は人口減少に歯止めをかけるべく、就任以来、中学生までの医療費無料化、第3子以降の保育料の無料化などを実現し、現在27年度の待機児童完全ゼロに向けて手を打った。そのため、人口の社会減は平成24年の225人から108人と半減した。人口減少にブレーキがかかった兆しといえよう。しかし、新潟県でも社会増している自治体もある。新潟市の621人増、湯沢町の43人増、粟島浦村の13人増がそれだ。これは「新潟ブラックホール現象」とも言え、周辺市町村から、仕事・学校のある新潟市に人口が流入していることを示す。

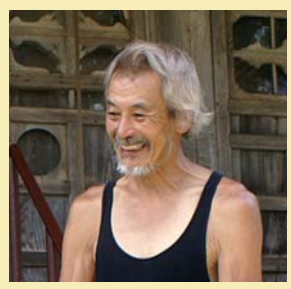
今後打つべき手としては、子育て世代から希望の多い「働きながら子育てできる環境づくり」がある。0歳児～中学入学までの子育て支援、既に取りかかった待機児童完全ゼロや小学校6年までの児童クラブ設置などが次の課題であり、さらに財政的には非常に困難だが、教育費負担の軽減策として、保育料の第2子までの無料化も視野に入れてほしい。

そして、もっとも望まれるのは「働く場の確保」である。仕事がなければ出産・子育てはおろか、生活していくことさえ難しいのだから。

産業基盤の弱い新発田市では、既存の農業・工業の高度化はもちろんだが、即効性・波及効果の大きさから、カギを握るのは「観光産業」になる。幸い新発田は観光資源に恵まれている。今ある資源を活用することで、雇用・収入増は可能だ。次回からその具体的な方法を検証していく。

コラム

賑わいの春


田中浜、千光寺で踊る

▼このところ、新発田が少し賑やかになってきたような気がする。お城の桜見物のついでに寄った新潟の知人に「新発田、面白いことやってるね」と言われて嬉しい心持ちになった。軽トラ市のことだ▼昨年2回やって好評だったことから、さらに改善を重ね、次回は5月11日(日)午前10時から、新発田のメインストリートを歩行者天国にして開催される▼生産農家が主な出店者で、毎回出店者が変わるせいか、珍しい農産物が見つかるのが楽しい。昨年秋は海老芋、今年4月はわさび菜。もちろん新鮮で安い。何より楽しいのは出店者とのおしゃべりだ。人気の野菜はすぐになくなるので、早めに繰り出すといい▼100円商店街も定着したようだし、武庸会100周年を記念して一昨年始まった堀部安兵衛生誕地まつりも続けられている。今年の目玉は山下洋輔＆渡辺香津美ジャズライブ（5月23日午後7時～、長徳寺、チケットは観光協会 TEL26-6789）だ。世界的なミュージシャンの競演で見逃せない▼世界的といえばもう一人、ダンサーの田中泯のパフォーマンスが、五十公野・千光寺境内で開催される。こちらは6月1日午後4時～、予約限定50人、チケット予約は阿部（TEL090-2733-3568）まで。ハリウッド映画『47RONIN』で安兵衛の主君を演じた縁で一昨年新発田で踊ってもらったが「新発田が気に入ったのでまた踊りたい」とは本人の弁。

SOP検証

5大事業、都市計画道路など27年度末をメドに整備進む

市新庁舎の入札はGW前後か。完成は28年末、翌4月開庁予定

市新庁舎の実施設計が完成し、議会の承認を得た。当初、平成27年度末の完成を目指していたが、東日本大震災などの影響で建設資材の調達に遅れが出ることが判明したため、完成予定を1年延ばして平成28年度末とした。4月に改訂された工事単価に基づいて建設費を精査したのち、早くて連休前後、遅くても5月中には入札が行われる見込みだ。しかし、建築資材の高騰や人手不足が続いており、入札不調の可能性がまったくないとは言えない状況だ。入札価格を物価スライドにするなど、柔軟な発想とそれなりの工夫が必要だろう。

敷地面積は約6千㎡（駐車場は71台）、建物は地上7階地下1階で延べ床面積約1万3千㎡、鉄筋コンクリート＋鉄骨造、中間免震構造、雨水利用・自然換気などによる温暖化対策などが構造的な特徴だ。旧庁舎の解体費などを含む総事業費は約70億円、建設費自体は約54億円とみられ、財源は合併特例債と建設積立金が充てられる。

市長の方針である「賑わい創出」「市民交流促進」や庁内検討会の検討をもとに、市民ワークショップ・建設審査会などで要望された部分については、建築資材の高騰にもかかわらず、エスカレータは設置せずエレベータ対応とする、4階に移動した議場の利用パターンを4種類から3種類に減らす以外、大幅に削られることはなかった。当初のコンセプトを生かしたうえ、市民要望の多くを取り入れた形となった。

「賑わい創出」に向けたソフト開発、まちなか活性係を新設してスタート

「賑わい創出」「市民交流促進」の場となる札の辻ラウンジ・広場および議会閉会中の議場・テラスなどの運営を検討することを含め、市役所に「まちなか活性係」が新設された。今年度1年は既存の事業展開のほか研究や企画立案に充てられ、来年度はパイロット事業の実施など、試行期間となる。ソフト事業の充実は「賑わい創出」を成功させるためには決定的に重要である。

しかし、計画は行政だけで完結させてはならない。計画中の駅前複合施設や整備中の旧新発田病院跡地の担当部署、商店街・市民団体等の民間団体との連携は必須である。まずは従来の縦割り行政の垣根を取り払って風通しの良い議論をお願いしたい。併せて、ていねいな情報公開による市民参画の体制づくりを望みたい。

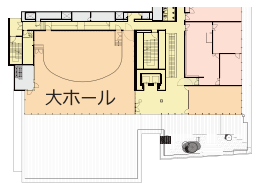
市新庁舎の市民利用スペース

1階
- 利用頻度の高い市民生活関連窓口を配置。
- ロビーには待合スペースと一体となったカフェを配置。
- イベント時には札の辻広場と札の辻ラウンジの一体利用が可能。
- 札の辻ラウンジには可動壁を設置し、展示機能を持たせる。
- 札の辻ラウンジにFMしばたのサテライトスタジオを配置、イベント情報の発信や緊急防災放送に対応する。

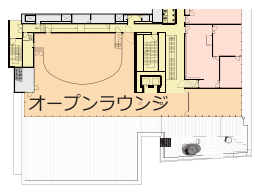
4階
- 議会関連諸室を配置。
- 議会閉会時の議場は、可動壁により各種市民利用が可能。
- 市民交流サロンを設置
- テラスには庭園を設け、市民の憩いの場として利用。

新市庁舎夜景

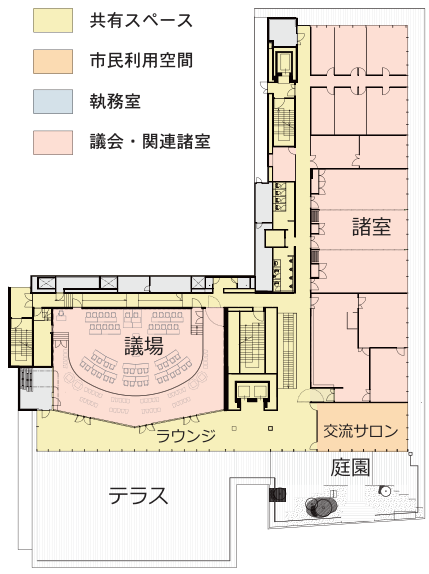
◆議場の市民利用パターン



▲大ホール：議場家具を格納し、コンサート・講演会等に利用



▲オープンラウンジ：可動壁・議場家具を格納し、イベント等に利用



駅前複合施設は基本設計が終了、実施設計と運営方法の協議へ

駅前複合施設行政棟2階

市民ワークショップや設計審査会を経て、駅前複合施設行政棟は次の段階に入った。構想発表から1年弱で実施設計に入ったスピードは驚異的だ。担当部署である企画政策課のみならず、詰め詰めのスケジュールの中で積極的にワークショップに参加した市民の熱意の賜物である。

行政棟の敷地面積は約4千600㎡（駐車場は62台）、建物は地上3階、延べ床面積約5千㎡、鉄骨造、ピロティ構造の駐車場を持つことが特徴だ。

総事業費は明らかではないが、建設費は約33億円、財源は合併特例債とリノベーション事業補助金などが充てられる。

この行政棟は図書館のほか、子育て支援機能、キッチンスタジオ、音楽練習室などが入る複合施設である。

今秋までに入札が行われ、27年度末の完成を目指している。こちらも事業をスムーズに推進するため、駅前複合施設建設室が新設された。今後は市民参加の運営方法やソフト部分についてのワークショップが開催され、その意見を反映させたいとしている。ただ、利用者の意見だけでは不十分で、各機能に精通した専門家からの意見聴取、隣接する民間棟（観光案内所・商業施設・若者定住施設などが入居予定）運営者との刷り合わせも必要だろう。

なお、駅前複合施設の新図書館は、現図書館を改修する「歴史書館」整備と一体であるため、その議論も深めてほしい。

蟻塚税務会計事務所	新発田市大栄町 7-1-6 TEL.0254-23-2222	茨木建設㈱	新発田市長畑 284-1 TEL.0254-23-6851
飯豊電設工業㈱	新発田市豊町 2-18-5 TEL.0254-24-2134	篠田労務管理事務所	新発田市新富町 1-5-9 TEL.0254-22-5649
㈱伊藤組	新発田市島潟 1273-1 TEL.0254-22-4176	新発田建設㈱	新発田市富塚 1942 TEL.0254-27-5711
㈱イノウエ	新発田市新栄町 1-3-2 TEL.0254-22-4056	島津印刷㈱	新発田市富塚 1419 TEL.0254-27-2101
㈱岩村組	新発田市大手町 4-3-21 TEL.0254-20-5550	㈱新和組	新発田市米倉 1287 TEL.0254-28-5011
SODデザイン	高橋智志 新発田市新富町 1-1-3 ストライプビル 2 階 TEL.0254-24-5121	大進電業㈱	新発田市佐々木 1895-9 TEL.0254-21-5000
小野寺税務会計事務所	新発田市大栄町 2-7-7 TEL.0254-22-3497	㈱大通	新発田市舟入町 1-12-5 TEL.0254-26-1191
㈱下越道路	新発田市新富町 1-1-5 TEL.0254-23-2296	新潟ファームサービス㈱	新発田市五十公野 4104-1 TEL.0254-20-3828
㈲クサカベモータース	新発田市五十公野 4836 TEL.0254-22-6311	フジマ舗道㈱	新発田市島潟 4197-3 TEL.0254-26-5030
㈱こじまホールディングス	新発田市中央町 3-5-12 TEL.0254-26-3381	扶桑畜産㈲	新発田市米倉字鳥越 4666-1 TEL.0254-28-5136
小林税務会計事務所	新発田市中央町 5-4-27 TEL.0254-22-2705	山田建設㈱	新発田市大友 3856 TEL.0254-25-0700
小柳産業㈱	新発田市八幡新田 416 TEL.0254-22-7010	㈲アミックス	新発田市五十公野 4837-6 TEL.0254-23-6817

介護老人福祉施設 陽だまり苑	新発田市岡田 1746-1 TEL.0254-20-3800	㈱安田組	新発田市豊町 4 - 3 - 39 TEL. 0254-24-1761
複合型福祉施設 コンフィ陽だまり苑	新発田市諏訪町1-10-38 TEL.0254-24-1111	㈱ワゴードライ	新発田市佐々木 3445 TEL.0254-27-2261

27年度末を目指して整備進む
外環状線・中環状線の道路網

南バイパスの延長である「五十公野バイパス」が3月26日（水）、開通した。荒町から六日町までの約2㎞で、これで国道7号線は460号線を経由し、凸版印刷のある県道535号線につながった。

27年度末までには、五十公野バイパスから県地域整備局脇までの「五十公野公園荒町線（1千307ｍ）」が完成し、中環状線を経て、五十公野公園に直結する。これによって、外環状線と中環状線が結ばれることになる。

新発田市街地の道路は、お城を囲むような2つの環状線（外環状線・中環状線）と、お城から環状線を結ぶ放射線状でつなげるのがそもそもの計画で、今から70年も前に、来るべき自動車社会に対応するために立案され、その後の高度経済成長、バブル経済の崩壊と少子高齢化の急激な進展などに伴って、不断に見直されてきたものだ。しかし、立案以来の道路の利便性・安全性の追求という本来的な目的自体は変わっていない。

市都市整備課・倉嶋課長は「これらの道路整備によって、交通利便性が飛躍的に増すとともに、市内の渋滞は緩和して、さらに交通弱者を巻き込んだ事故も減少すると見込まれています。また、新発田市街地は城下町のため道路が狭く、入り込んでいるため、緊急車両の通行を阻害したり、災害時の避難に問題がありますが、それも改善されます。まだ整備の途中ですが、今後は環状線を結ぶ放射状の道路整備を順次進めていきます。利便性向上、渋滞緩和、それと脇道に逃げる車は少なくなり、生活道路はより安全になると思います」と解説した。

これらの道路を見て気づくのは、歩道がこれまでより広く取ってある（3・6ｍ）ことだ。「今までは車歩分離、安全に歩ければいいという発想でしたが、これからは車椅子や高齢者・障がい者の電動カートが安全にすれ違えることが重要です。また、道路緑化も順次進めていく計画です」（同・倉嶋課長）。

厳しい財源の中で、新発田市の道路整備は市民理解のもとで順調に進んでいるが、用地買収など非常に困難な作業を伴う。派手な仕事ではないが、地道に努力している担当者に敬意を表したい。

なお、これらの市道整備の財源は多くの場合55％が国庫補助金、残りは合併特例債である。そのため「五十公野公園荒町線（図③）」の整備費は約13億円であるが、市の負担は約2億円で済む。多くの工区で合併特例債期限の27年度末までの完工を目指す所以である。

27年度末までに完成予定の工区は前出の「五十公野公園荒町線」のほか、「島潟荒町線（図①・東新工区・358ｍ）」「西新発田五十公野線（図②・東豊工区・912ｍ）」がある（左のまちづくりイメージ図参照）。

PEOPLE ーシリーズー
この人に聞く！ vol.19

■ 新発田市長
二階堂馨さん

産業振興で雇用増を実現、子育て支援策も推進する

他市町村に先駆けた子育て支援策実現は職員の人件費削減等、経費切りつめで

――市長に就任して3年半になりました。この間を振り返っていかがですか。

「他でも聞かれたんですが、私は前だけ見て全力疾走してきましたので、振り返れと言われても困ってしまうんです。もっと上手くやれたことも幾つかあったかもしれません。ただ、言えばグチになるから言いません（笑）。大方の公約は実現したか、実現に向かっています。しかし、二・三手つかずのものもあります。首都圏のアンテナショップは課題が多くて、まだ研究中です。官民合同で新発田の未来構想を話し合ったり、民間のノウハウを学ぶ『新発田百年委員会』（仮称）は、今年度中に目鼻をつけたいと思っています」

――一番、印象深い出来事は。

「東日本大震災です。自分でも驚くほど素早い対応ができました。あれほど多くの避難者が来るとは予想できませんでした。受け入れのマニュアルも何もない中で、いわば政治的な経験と勘で対応したんです。それが上手くいった。職員たちは阪神・中越・中越沖地震、何回か応援に行っていますから、その経験が生きました。職員の頑張りに感謝しています。また、私も何度も被災地に行って惨状を目の当たりにしましたから、新発田でもしっかり備えをしなくてはならないと強く感じ、学校耐震化を前倒しでやることにしました」

――これまでの主な成果は。

「スローガンに掲げた『住みよいまち日本一』、言い換えれば人が寄ってくるまちのことです。選ばれるまち。達成度の物差しは人口です。全国的な少子超高齢化社会にあって、人口が増える、あるいは減らないようにするにはどうすればいいのか。私の手法は『ムダを省いて産業振興にお金を回して税収を上げ、その金を教育・福祉に回す』というものです。当初財源としたのは職員の人件費の削減です。職員には難儀をかけましたが、今年度末には約11％減らせそうです。これで年間約5億浮くことになります。そのお金で、他市に先駆けて3歳児から中学生までの医療費無料化、昨年からは第3子以降の保育料助成を実現しました。そのせいか、出生率は上がりましたし、転出人口にも少しだけ歯止めがかかったようです。27年度には待機児童完全ゼロ対策を実施します」

産業振興・子育て支援・教育の充実。3本柱で『住みよいまち』実現へ

――今後の方針は。

「教育・福祉はまあまあやれました。でも、産業面ではタネはまいたものの収穫するまでには至っていません。ですから、これを大切に育てて、市民に果実を届けたいと思います。産業振興をしっかりやりたい。雇用を増やさなければ、人が集まるどころか、逆に出て行ってしまいます。産業振興は新発田を次の世代に渡すための最重要課題です」

――具体的には。

「食品工業団地を今の倍に拡張して、ここだけで400～500人、雇用を増やす計画です。企業誘致ですね。もちろん市内の既存企業の高度化も推し進めて、雇用増大につなげなければなりません。それと3年かけて実証実験してきた『健康農産物づくり推進事業』、これは漢方薬原料の実証栽培ですが、東京生薬協会と連携して、まずはどんな薬草が新発田に適しているかを検証します。上手くいけば、中山間地の耕作放棄地、猿害対策としても有効ですね。もちろん、アスパラや越後姫などの特産化を進める事業も継続します」

――波及効果の大きい観光面では。

「まずは『月岡温泉開湯百年祭』を成功させ、月岡温泉を全国に再発信します。『全国そば博覧会』『全国あやめサミット』などのイベント開催を誘客の起爆剤にして、観光客増に取り組みます。ただ、イベント頼みでは恒久的な観光客増・リピーター増は図れませんので、観光協会を通じて旅行商品を企画・立案して販売します。観光協会ではこの4月に通販サイトを立ち上げました。このサイト、『しばたん市場』というんですが、新発田の物産の通販だけでなく、旅行商品の受付もやっています。もう一つ、新発田駅と月岡温泉を結んで、その間の観光地を周遊する『しばたんバス』も運行します。いずれも実験的な試みですが、改善を重ねて実効ある観光誘客策にしたいと考えています」

――いわゆる5大事業はいかがですか。

「し尿処理施設はこの4月から稼働、新発田駅周辺整備、県立病院跡地活用は27年度末に完成、学校耐震化もほぼメドがつきました。ただし、市庁舎は大震災などの影響が大きくて、全国的な建材不足・人手不足の影響から工期を1年延長し、28年度の完成予定です。市庁舎に関しては、専門の部署を新設して、賑わい創出、市民交流促進のためのソフトづくりに取りかかりました。まずは市庁舎周辺ですが、将来は旧県立病院跡地や駅前複合施設も含めた連携が必要になります」

――その駅前複合施設ですけど、短期間によくまとまりましたね。

「千載一遇のチャンスを逃すわけにはいきません。図書館改修は長年の課題でしたし、駅前に高校生たちの居場所を、また市の物産の販売所や観光案内所の設置は市民要望として出され、議会でも採択されていました。しかし、これまで図書館建設には国の補助金が出なかった。市単独で30何億もの予算を調達することはできないので、じっと我慢してきたんです。ところが昨年春、リノベーション事業といって建設費の半分が補助される国交省の制度ができました。これと合併特例債と合わせると市の負担は6億円程度です。これなら出来ないことはない、と判断しました」

――「今でしょ」ということですね（笑）。

「スピードの勝負でしたが、幸いなことに国交省がリノベーション事業を例外的に年度内採択して下さったので合併特例債との合わせ技が使えました。年度内採択してもらえなければ工期がずれ込むので特例債も使えず、資金調達は不可能でした。リノベーション事業の趣旨に沿った計画を立案した担当部署の職員に感謝していますし、採択後細部について熱心に検討して下さった市民の皆さんのお陰です。今後は運営のワークショップを開催します」

――従来の重要施策「産業振興」「子育て支援」に、今年は「教育の充実」を加えましたが。

「第一に子どもの自己実現のためにぜひとも必要な施策です。学力がつけば子どもの未来の選択肢、可能性は飛躍的に広がります。とにかく子どものため。それに加え、親がどこに住むか決めるとき、最大のポイントは『教育程度』、いじめがないとかもありますが、そのまちに行けば『よい教育が受けられる』『学力が上がる』のなら、そのまちに集ります。教育を充実させて、新発田を『選ばれるまち』にしたいんです。そのために今年は教育支援員と中学校英語指導主事を配置させていただきました」

SOP
イチオシの味

六本木 the カフェ

ランチは子供と、夜は大人同士で盛り上がる

新発田市の新興住宅街にオープンしたこのお店は、モダンな店内ながら畳敷きの小上がりもあり、たまにはランチを外で、という小さな子ども連れのママたちに喜ばれている。メニューにもお子様ランチのセットを用意。毎週水曜日に替わる大人用の A、B の 2 種のセット（1,200 円）や 800 円のランチにはサラダバーとドリンクもつく。今週のデザートでは、地元 wagoro さんのシフォンケーキや自家製のプリンなどを用意。昼間はランチ目当ての女性客が多いが、夜は一転、多国籍料理を主にしたお洒落なバルに変身。昼も夜も賑やかな地元のカフェだ。

1. この日の B ランチ（1,200 円）。サラダバーには手作りのパスタサラダや春雨サラダなども並ぶ。デザートにその日の 2 種が両方つくのがうれしい
2. ランチタイム担当の小林洋子さんも子育て中。だから子供連れママたちの気持ちがよく分かる　3. カラフルな色が可愛い店内が気持ちを明るくしてくれる　4. 畳敷きの小上がりはママ友ランチに大人気。予約がおすすめ　5. おしゃれな外観 6. 2 階の座敷には 60 インチの大型テレビを用意。20 名までのママ会や女子会に最適（要予約）　7. ワインの種類が豊富だから夜もお洒落な大人の時間が楽しめる

六本木 the カフェ
☎0254-37-1243
住／新発田市富塚町 1-13-19
営／ 11:30～14:30（LO13:30）
　　17:00～24:00（LO23:30）
休／火曜・ランチタイムのみ第 2・4 火曜休
収／ 30 席（小上がり＆イス席）、
　　2F 座敷 20 名まで＝ママ会・女子会に！要予約
P／ 15 台

読者モニタープレゼント
六本木 theカフェ ランチ券（1,200円）
本紙感想・ご意見、住所・氏名・電話番号を明記の上、表紙左上の住所宛までハガキにてご応募下さい。
抽選で5名様に引換え券を差し上げます。
※平成26年5月26日（月）必着